

平成24年度「みえの現場・すこいちゃんトーク」(いなべ市)の概要

6月28日(金)にいなべ市で「みえの現場・すこいちゃんトーク」を開催しました。

当日は、子どもの育ちと子育てに関する活動を行っている団体を代表する皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 食べ物を大切にする子どもは、命を大切に、おもいやりがある子に育つと思うので、県ももっと食育に力をいれてほしい。
- 活動をしていて、自分たちが何かをやりかかって、形になってきたところで、行政の制度などが変わってしまっていて肩すかしをくうことが多い。行政は、活動が継続していけるためのシステムをしっかりとしてほしい。
- 子ども条例は、なかなか浸透していないので、もっとPRをしていくことが必要である。
- 中学生、高校生の居場所が少ない。居場所づくりとして、子どもたちがボランティア活動にもっと関われるように、もっと活動しやすくなるシステムや活躍できる場をつくってほしい。

- 特別支援学級に通っている子どもたちに対して0～18歳までを一環して支援できるような仕組みをつくってほしい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 県では昨年度に食育に関する計画を策定しており、地域の食材を使った食育にもっと力を入れていきたい。
- コミュニティスクールに関しては、地域みんなで取り組めるよう、地域に開かれた学校をめざして、県も応援していきたいと考えている。社会的に孤立させないことが大切だと考えている。
- 特別支援学級の支援については、現在パーソナルカルテという仕組みを設計中であり、子どもたちの状況の変化に合わせて、一貫してちゃんと支援をつないでいける仕組みにしていく必要がある。



